

北海道内の障がい福祉サービス事業所における
創作活動・表現活動の実施状況と関連要因に関する調査

調査結果報告書

令和 2 年 3 月

松本 奈津実

安井 友康

北海道教育大学大学院 教育学研究科

北海道内の障がい福祉サービス事業所における 創作活動・表現活動の実施状況と関連要因に関する調査結果

I. アンケート調査の目的と方法

1. 目的

北海道内の障がい福祉サービス事業所（以下、事業所とする）における創作活動・表現活動の実施状況と、活動を促進する要因・阻害する要因を明らかにすることを目的とした。

2. 対象

北海道内で生活介護サービスを提供している障害福祉サービス事業所の約半数を無作為に抽出した。257 の事業所を調査対象とした。

3. 期間

2019 年 11 月～2019 年 12 月中旬

4. 回収枚数と回収率

回収率は 62.6%（161 通）で、有効回答率は 59.9%（154 通）であった（令和元年 12 月 19 日現在）。

II. アンケート調査の結果の概要

1. 調査対象事業所の属性

回答が得られた事業所の所在地域については、「札幌市内」が 29.2%、「札幌市を除く道央」が 25.3%、「道南」が 11.7%、「道北」が 15.6%、「道東」が 17.5%であった（図 1）。利用者全体の平均年齢は、「30 代」がもっとも多く 32.8%であり、次いで「40 代」が 27.9%、「50 代」18.8%、「10 代～20 代」が 9.1%、「60 代」が 8.4%、「70 代」が 1.9%、「それ以上」が 0.6%であった（図 2）。

障害支援区分の平均については、「障害支援区分 3～4」が 42.9%、「障害支援区分 5～6」が 54.5%であり、「障害支援区分 2 以下」と回答した事業所はなかった（図 3）。

サービス対象の障害種については、複数回答が可能な形式で尋ねたところ、「知的障害」がもっとも多く 83.8%、「身体障害」が 32.5%、「重複障害」が 30.5%、「精神障害」が 22.1%であった（図 4）。

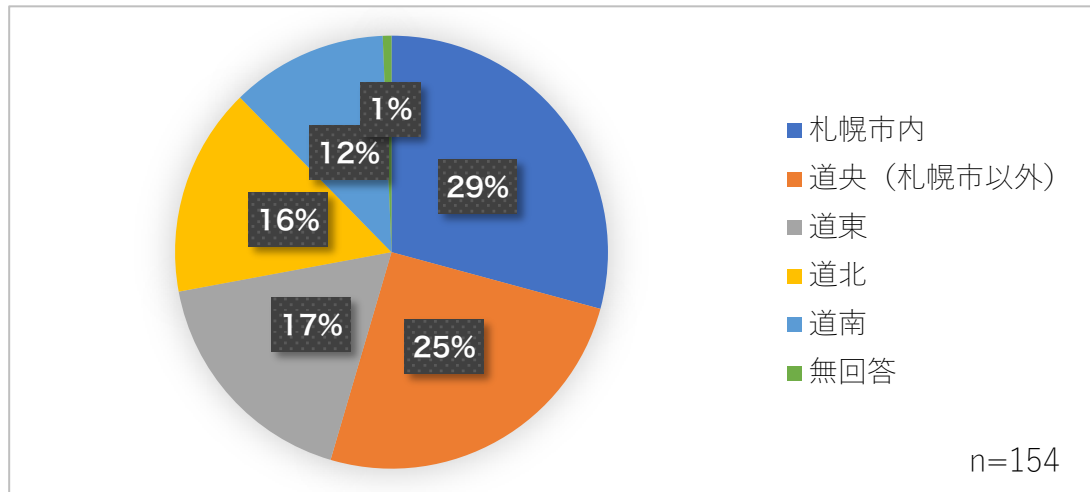


図1 対象事業所の所在地域

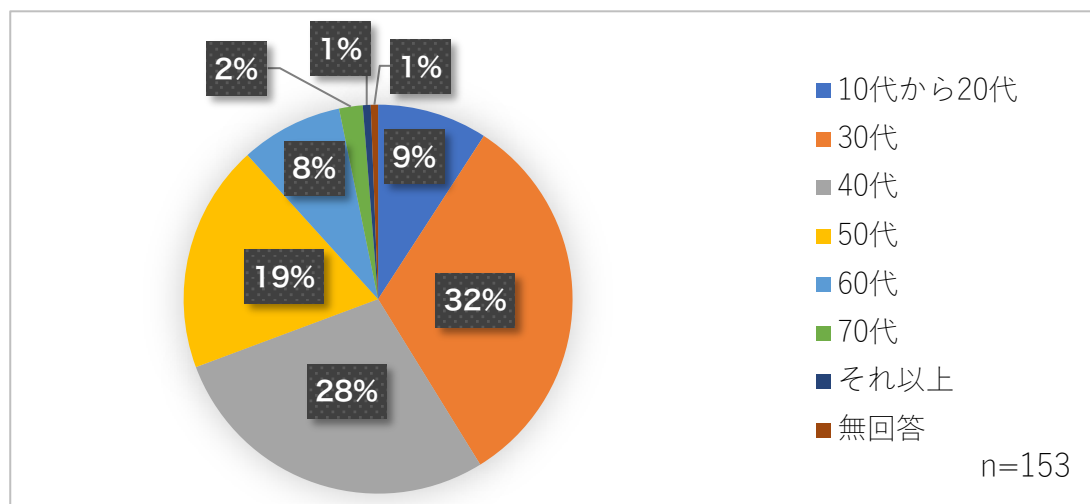


図2 利用者全体の平均年齢

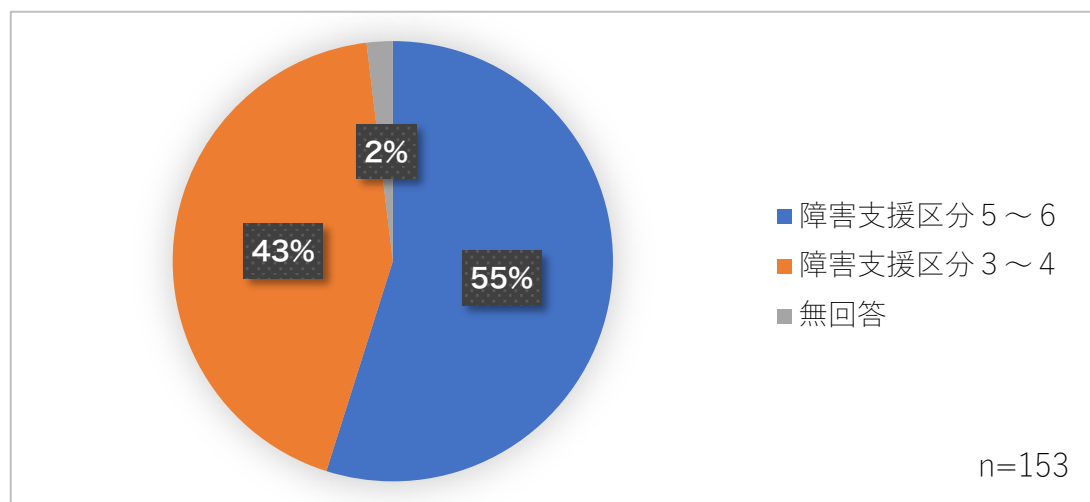


図3 利用者全体の支援区分の平均

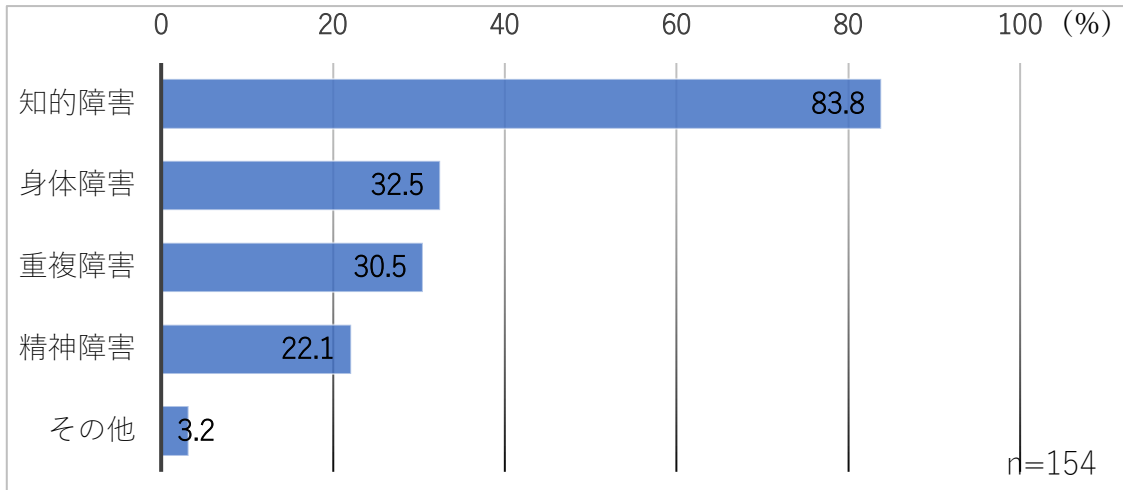


図4 サービス対象の障害種（複数回答可）

2. 過去一年程度の創作活動・表現活動の実施状況

事業所における、創作活動・表現活動の活動頻度に関しては、「週に4日以上行っている」が40.3%、「週に2～3日行っている」が27.9%、「週に1日行っている」が11.7%、「月に1～3日行っている」が13.6%、「年に数日行っている」が4.5%であった。創作活動・表現活動を行っていない事業所はなく、有効回答が得られた全ての事業所で何らかの創作活動・表現活動が行われていることが確認された。さらに、約8割の事業所が、週に1日以上何らかの創作活動・表現活動を行っているという結果であった（図5）。

活動内容の内訳を見てみると、「貼り絵を含む絵」の活動を行なっている事業所が、全体の90.9%、「カラオケ」が79.2%、「紙工」が64.9%、「縫い物や編み物」が54.5%、「ダンス」が44.8%、「楽器」が38%、「書道」が35.1%、「合唱やコーラス」が33.8%、「木工」が21.4%、「粘土や彫刻を含む造形」が20.8%、「陶芸」が11.7%、「演劇」が3.9%、その他の活動が29.5%であった（図6）。その他の活動内容としては、「ビーズ」や「活花」、「織り物」などの活動が挙げられていた。

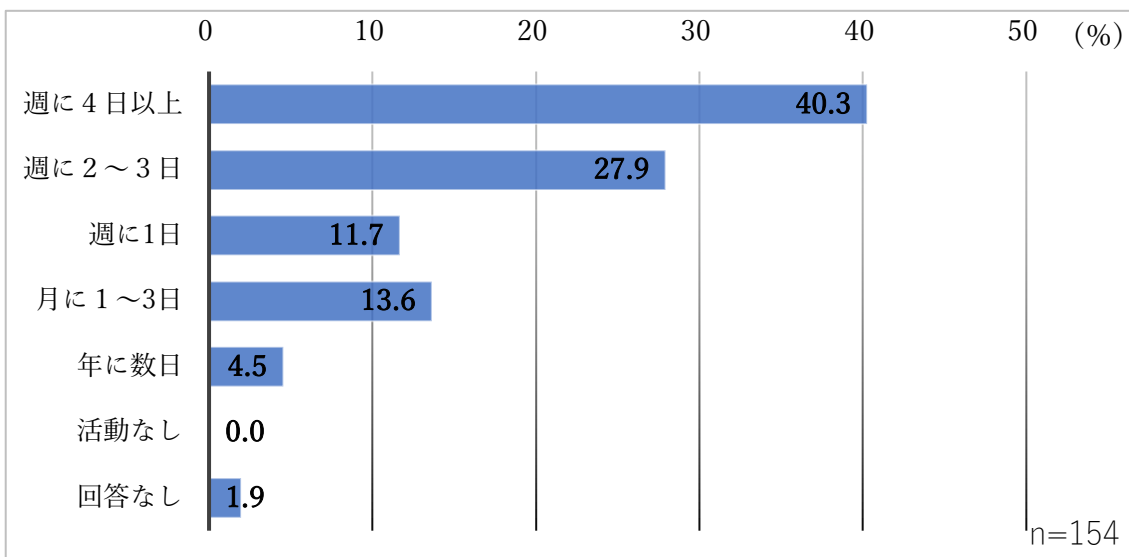


図5 創作活動・表現活動の活動頻度

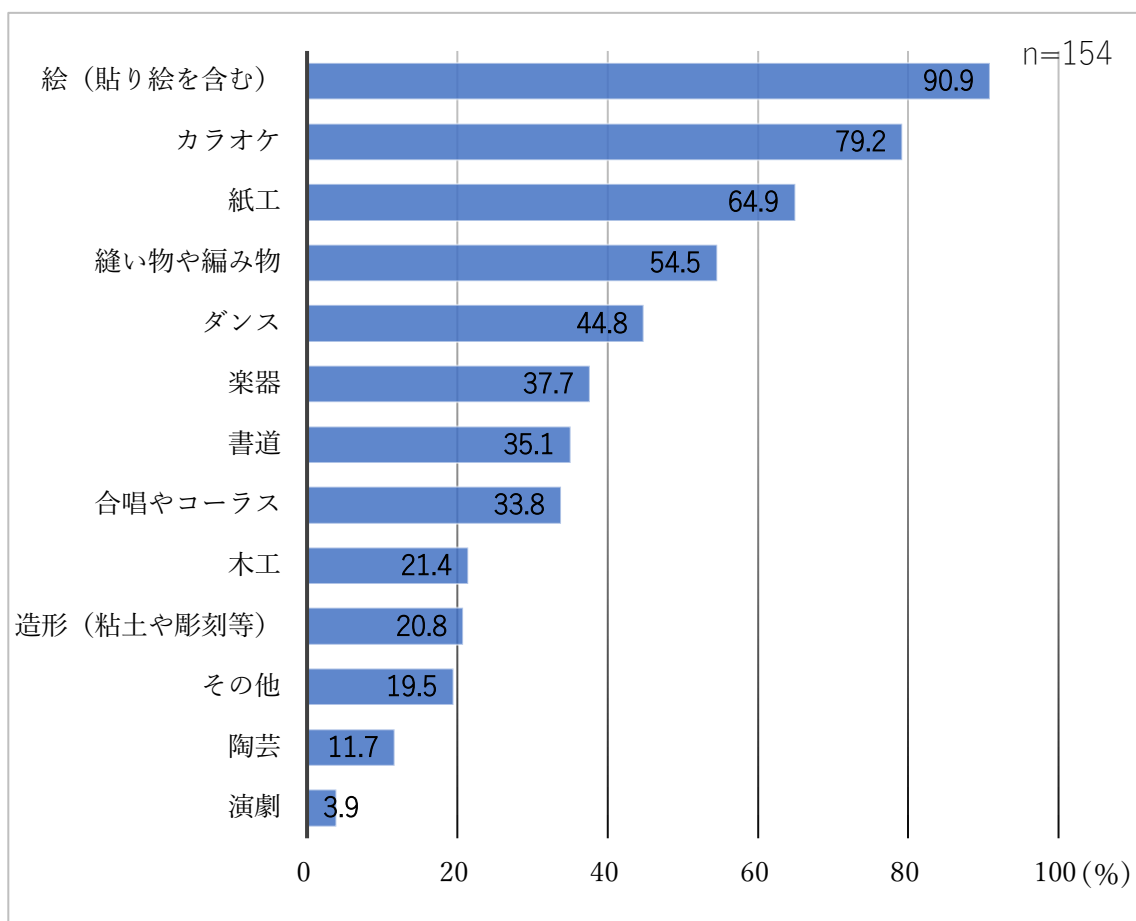


図6 創作活動・表現活動の活動内容別の実施状況

各事業所で行っている創作活動・表現活動の種類数を回答した選択肢の数から調べると、13種類の選択肢全ての活動を実施していると回答した事業所が1カ所、12種類及び11種類が0カ所、10種類が5カ所、9種類が9カ所、8種類が9カ所、7種類が15カ所、6種類が25カ所、5種類が29カ所、4種類が22カ所、3種類が20カ所、2種類が12カ所、1種類が6カ所あることがわかった（図7）。実施される創作活動・表現活動の種類数の平均は、5.2種類であった。

また、各活動に対して、どのような目的で行ったか、「余暇」「行事（イベント）」「仕事」「訓練」「実施していない」の選択肢の中から複数回答が可能な形式で尋ねた。その結果、「貼り絵を含む絵」「造形」「縫い物」「紙工」「カラオケ」「ダンス」「楽器」「書道」「その他」の活動は、「余暇」として行われる傾向があり、「陶芸」「合唱」「演劇」は「行事（イベント）」として、「木工」は「仕事」として行われる傾向があることがわかった。しかしながら、「縫い物」と「紙工」については、各事業所の活動目的にばらつきがあり、「余暇」の目的がもっとも多かったものの、他の目的で活動をしている事業所も多くあった。詳細は図8に示した。

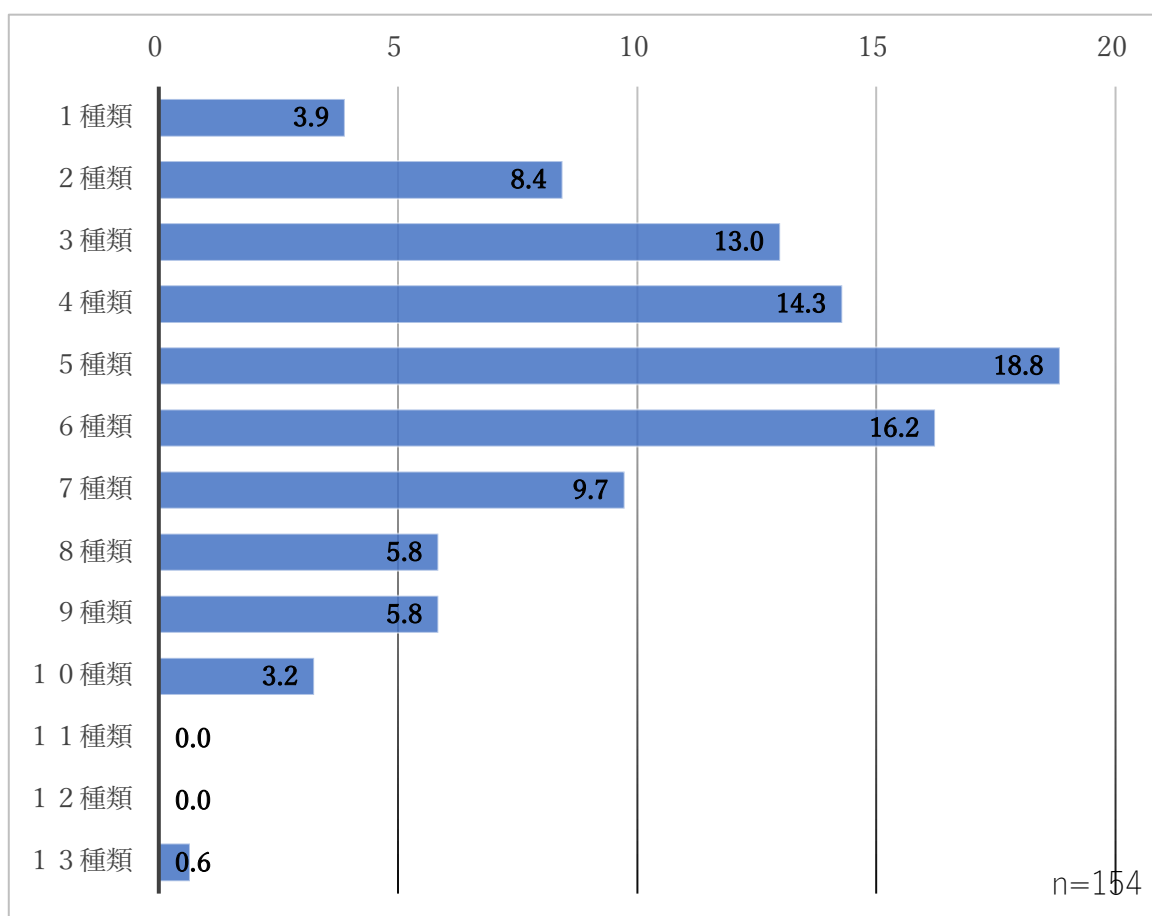


図7 各事業所において実施した創作活動・表現活動の種類の数

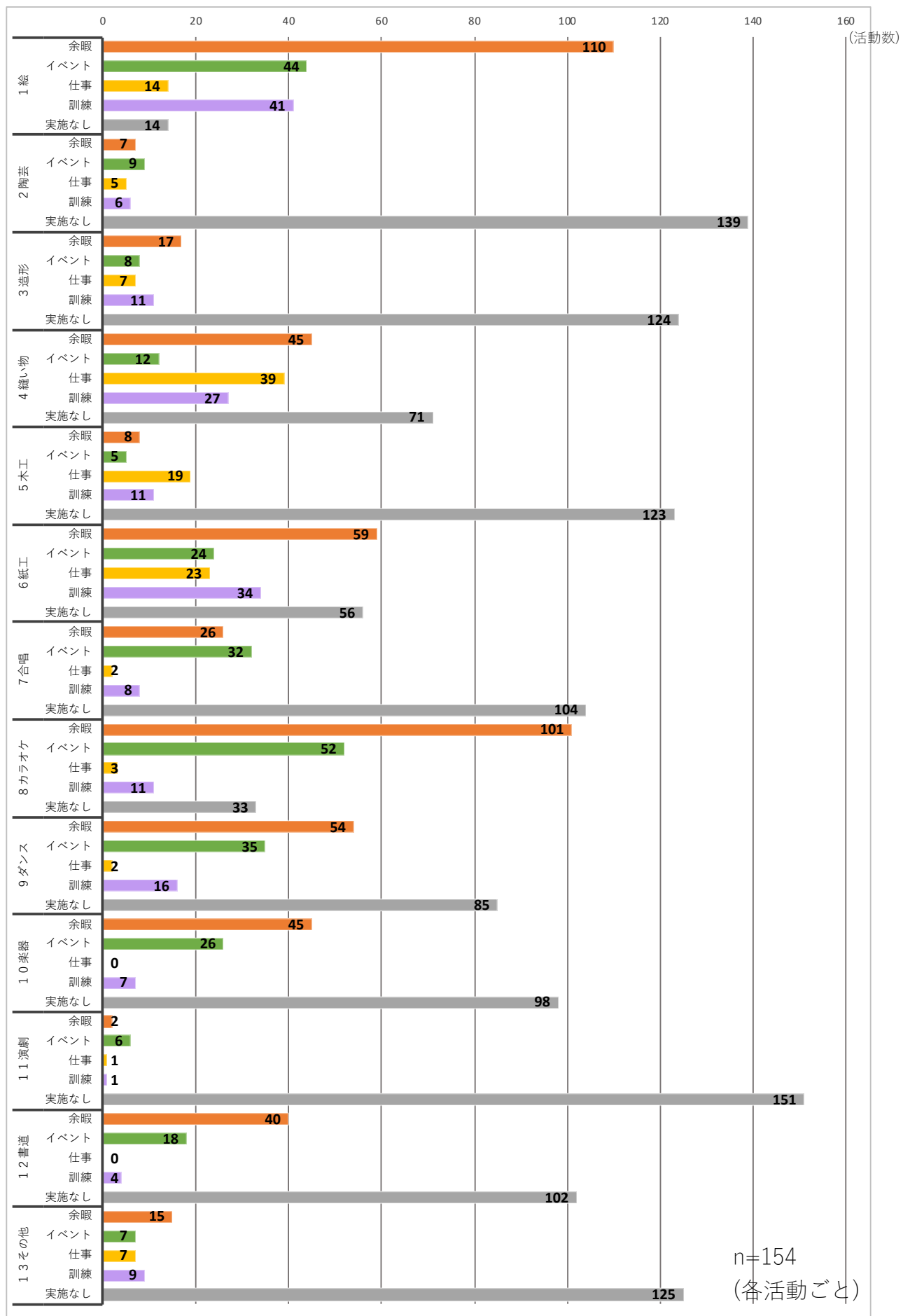


図8 創作活動・表現活動の活動内容別の実施状況

さらに、創作活動・表現活動の目的として最も多かった選択肢を調べるため、図9のように、回答を「余暇」「行事（イベント）」「仕事」「訓練」の4つの選択肢ごとにまとめた。すると、「余暇」を目的とした活動の総数は529あり、これは全体の47.4%であった。同じように、「イベント」を目的とした活動は278（全体の24.9%）、「仕事」を目的とした活動は112（全体の10.9%）、「訓練」を目的とした活動は186（全体の16.7%）と、「余暇」を目的とした活動が全体の半数を占めていた。

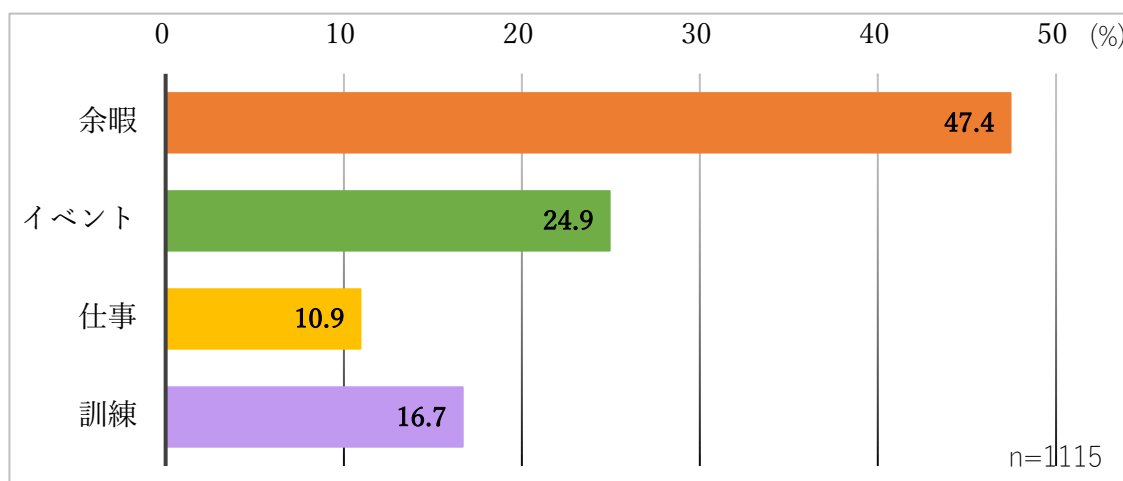


図9 創作活動・表現活動を実施する目的

3. 外部の人の参加の有無と後悔の機会の有無

「創作活動・表現活動を行う上で、外部の人（指導者、学生、地域の住民）と一緒に活動したものはありましたか」という設問に対して、外部の人の参加があったと回答した事業所は、全体の49%であった（図10）。また、外部の人が参加した活動をどのくらいの頻度で行ったかについては、毎週が14%、毎月が43%、年に数日が33%、不定期が10%であり、毎月行っている事業所が多かった（図11）。

また、「活動の成果を公開する機会がありましたか」という設問について、活動の公開の場があったと回答した事業所は、全体の69%であった（図12）。公開の活動の内容については、絵画の展示など展覧会への出展が多くを占めていた。

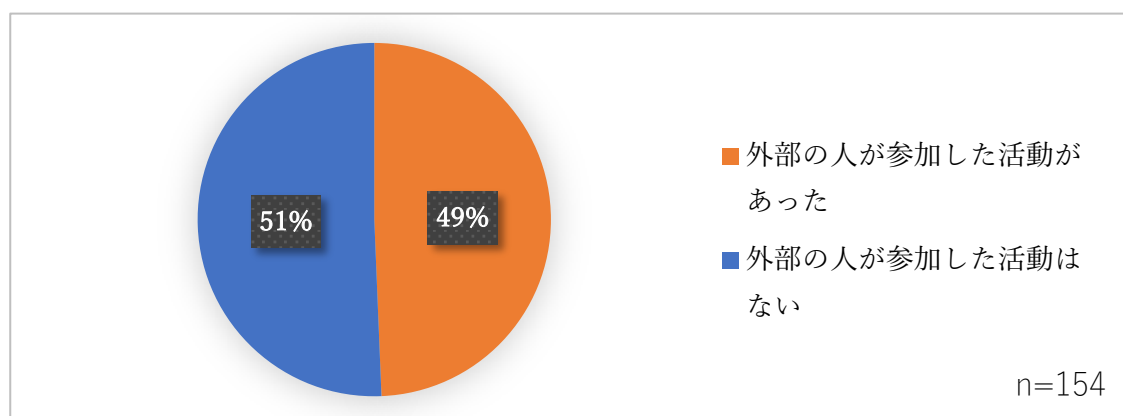


図10 外部の人の参加の有無

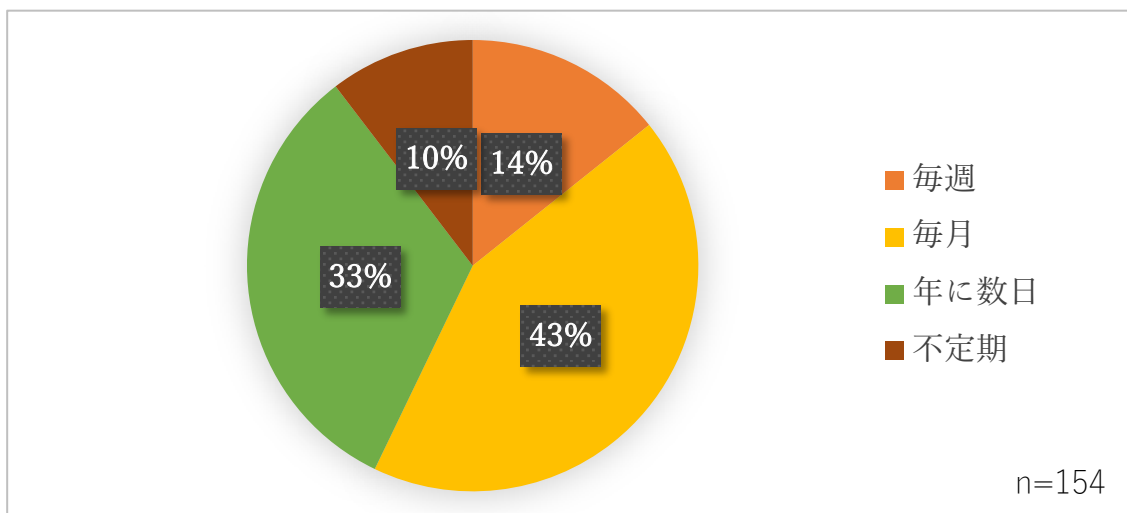


図 11 外部の人の参加した活動の実施頻度

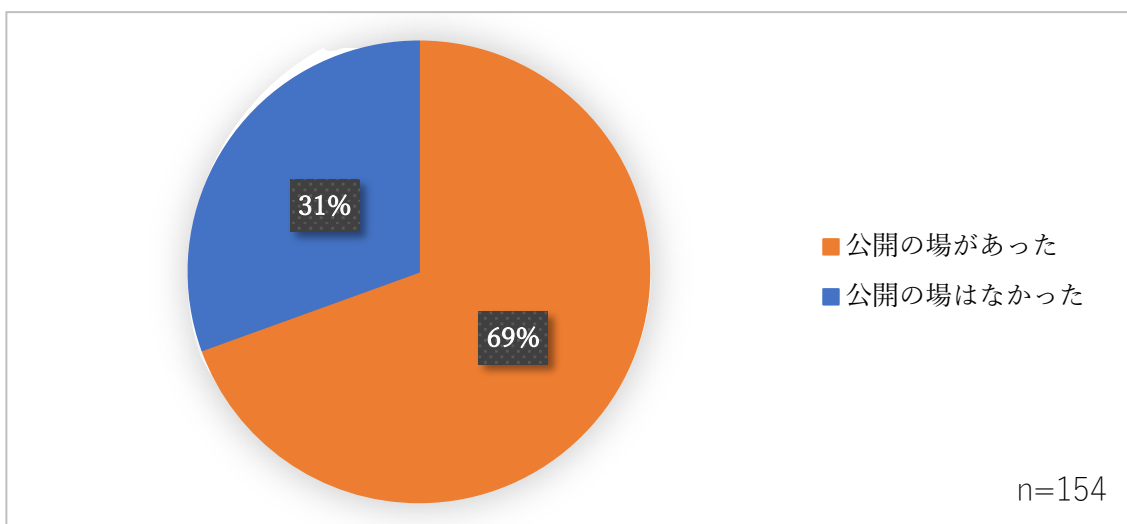


図 12 公開の機会の有無

4. 事業所における創作活動・表現活動に関する課題

事業所における、創作活動・表現活動に関する課題については、「指導者の確保」「職員の専門性」「支援方法」の項目で、とても課題に感じる、又はやや課題を感じると回答した事業所が全体の6割以上であり、特に課題意識が強い項目と言える。各項目についての結果の詳細は、図 13 に示した。

また、設問の項目の中で、特に課題に感じる何かという設問では、「職員の専門性」を選択した事業所が全体の 17.1%、「支援方法」が 15.8%、「指導者の確保」が 11.8%の順に高く、先の設問で課題意識が強かった上位 3 つの項目と一致する結果となった（図 14）。

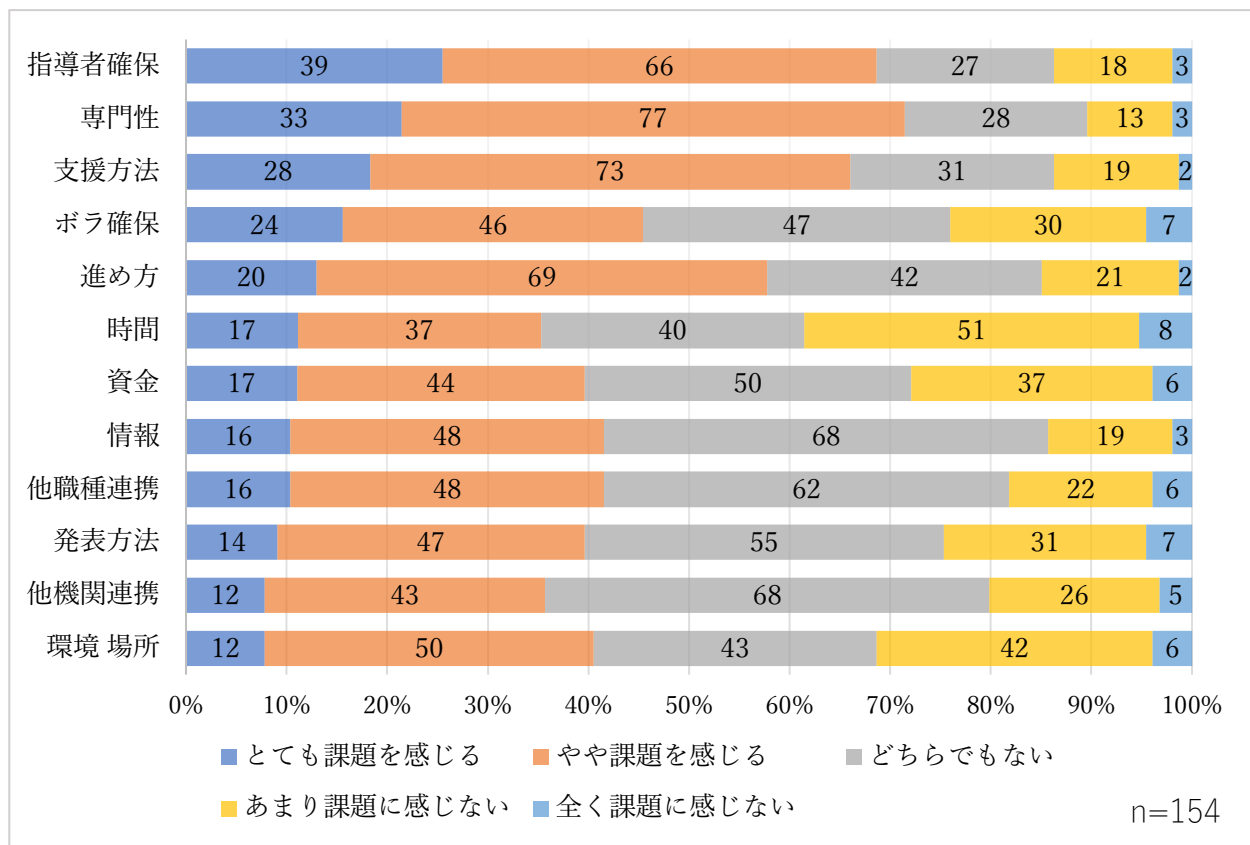


図 13 事業所における創作活動・表現活動に関する課題

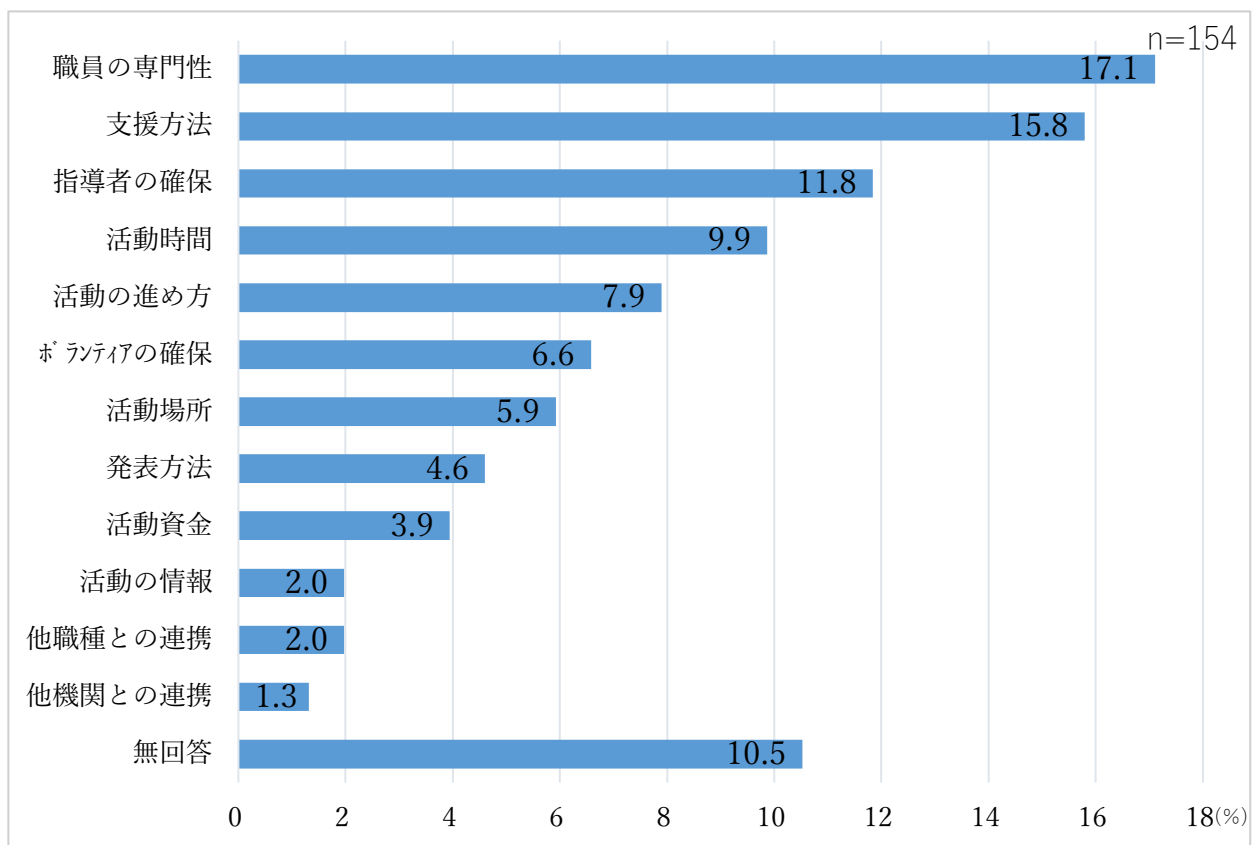


図 14 事業所における創作活動・表現活動において特に課題に感じること

5. 創作活動・表現活動に関するニーズ

利用者の創作活動・表現活動に対する興味関心の度合いについては、「とても興味関心がある」が24.7%、「やや興味関心がある」が44.8%、「どちらでもない」が18.2%、「あまり興味関心がない」が9.1%、「全く興味関心がない」が1.9%であり、約7割の事業所で、利用者が創作活動や表現活動に対して興味関心があるようであった（図15）。

「事業所としてどの程度力を入れて創作活動・表現活動に取り組んでいるか」については、「とても力を入れている」が12.3%、「やや力を入れている」が46.8%、「どちらでもない」が24.0%、「あまり力を入れていない」が16.9%、「全く力を入れていない」が0%であった（図16）。

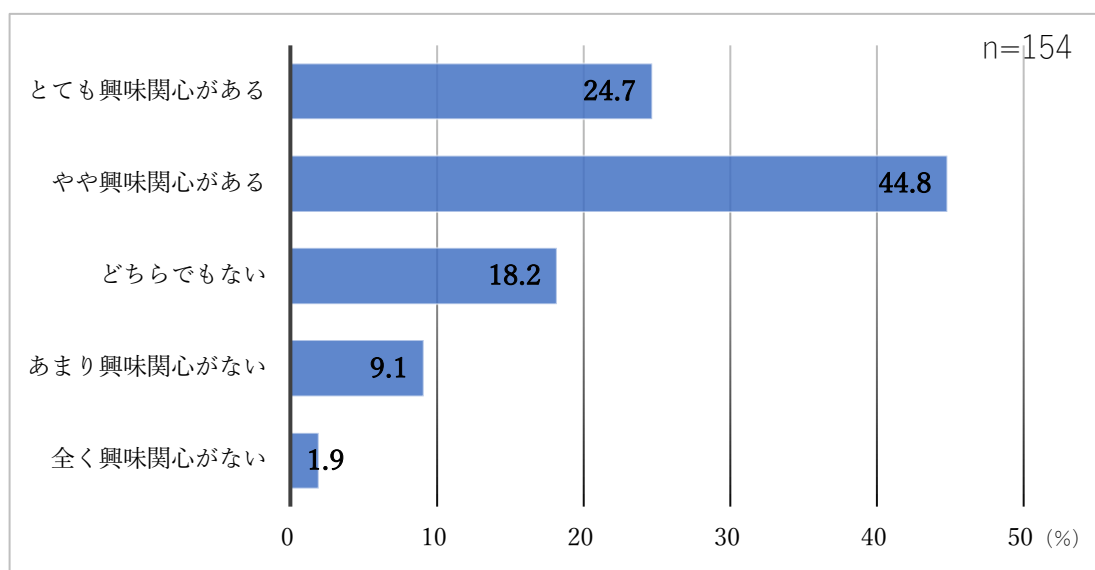


図15 利用者の創作活動・表現活動に対する興味関心

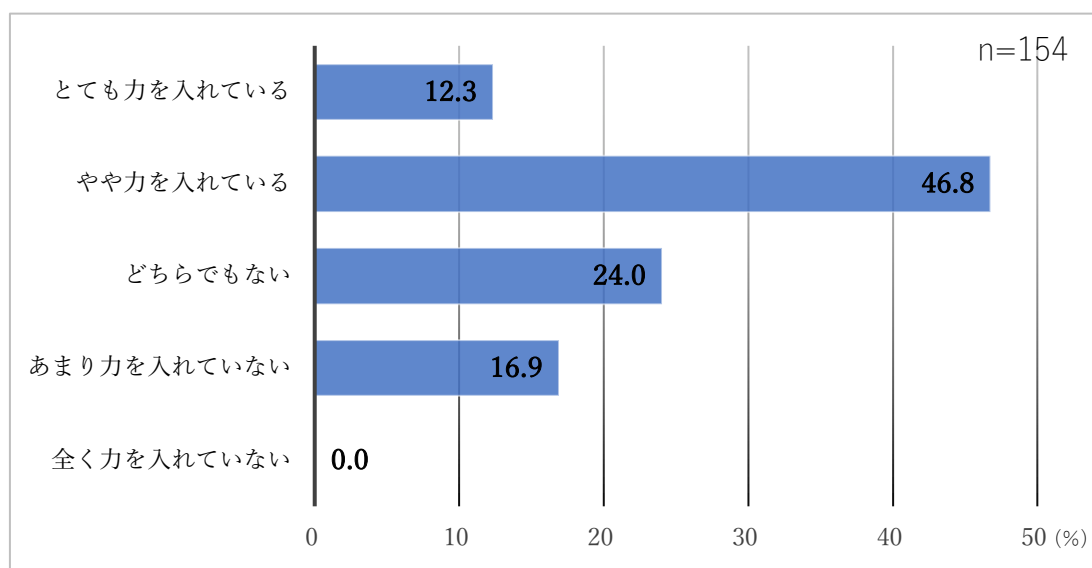


図16 各事業所の創作活動・表現活動の取り組み状況

「利用者のニーズにどれだけ応えられていると思うか」については、「とても応えられている」が 3.9%、「やや応えられている」が 50.6%、「どちらでもない」が 22.7%、「あまり応えられていない」が 22.1%、「全く応えられていない」が 0.6%であった（図 17）。

今後の創作活動・表現活動の希望頻度については、「増やしたい」が 42%、「現状を維持したい」が 55%、「減らしたい」が 3%であった（図 18）。

関係機関や専門家に望む支援や制度については、「外部の指導者の介入」が一番多く、37%の事業所で望まれる支援として選ばれていた。ついで、「支援に関する助言」が 34.4%、「研修会や交流会の開催」が 24.7%、「資金の助成」が 23.4%と続いた。その他の詳細は、図 19 に示した。

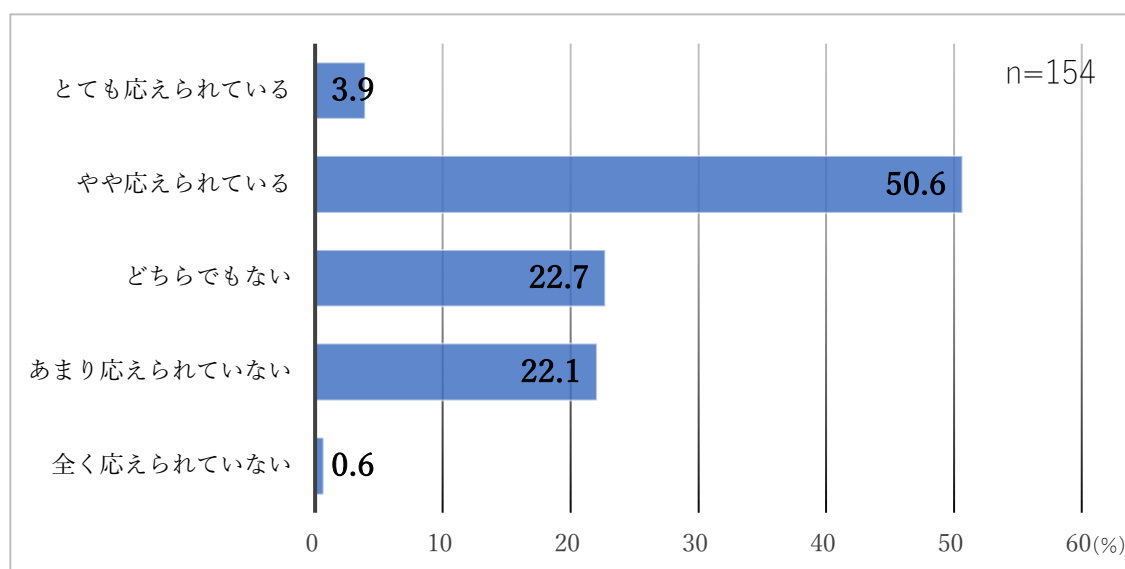


図 17 利用者のニーズに対してどの程度応えられているか

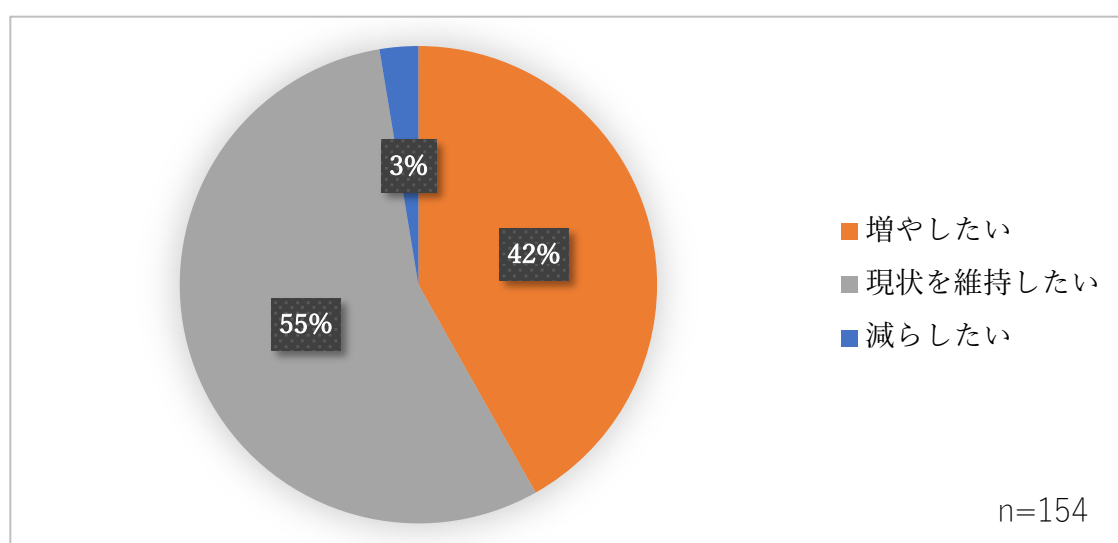


図 18 今後の創作活動・表現活動の希望頻度

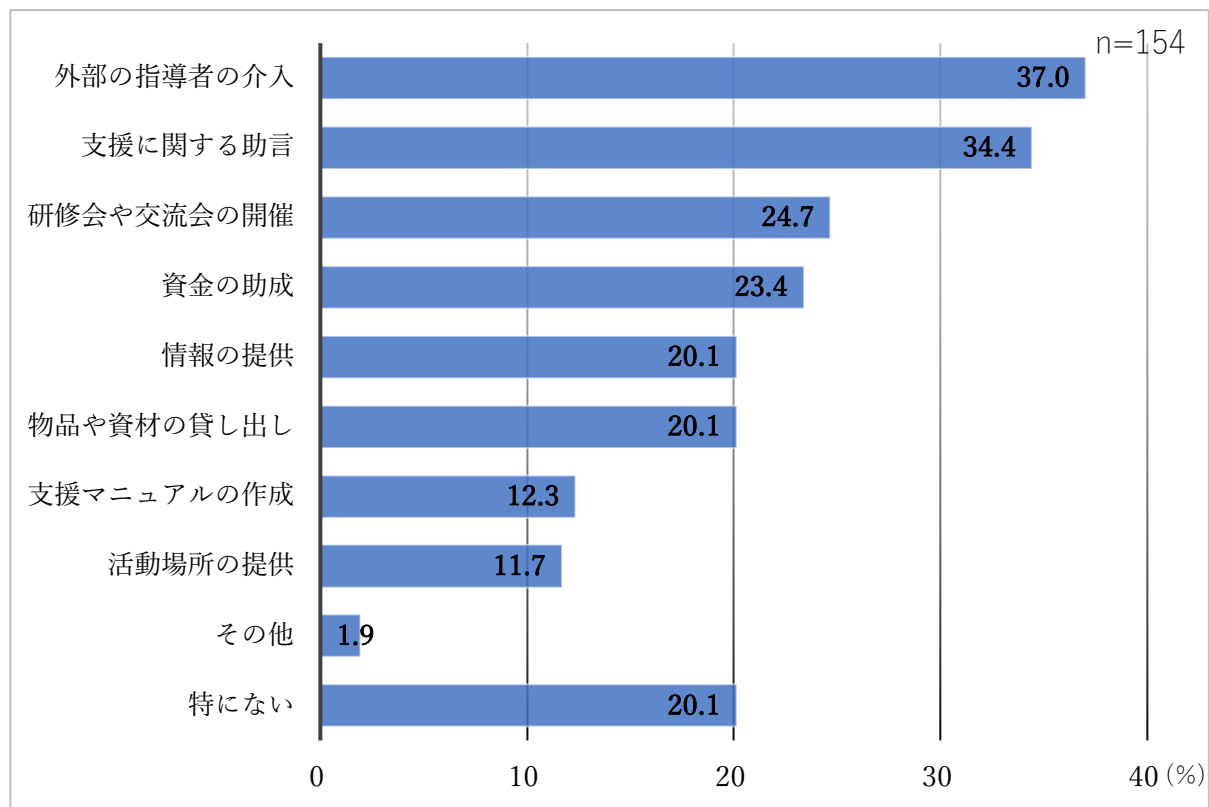


図 19 専門者や関係機関に望む支援や制度（複数回答可）

6. 創作活動・表現活動がもつ効果や意義

創作活動・表現活動がもつ効果や意義について知るために、「貴施設で利用者が創作活動や表現活動を行うことは、どのようなことにつながると感じますか」という設問を、5件法を用いて尋ねた。その結果、「とてもそう思う」という回答が最も多かったのは、「喜びを感じる」の88（全体の57.9%）であり、次いで「個性を生かせる」の80（52.3%）、「自分に自信をもつ」の70（45.8%）であった。詳細を含め、全体の内訳は図20に示した。

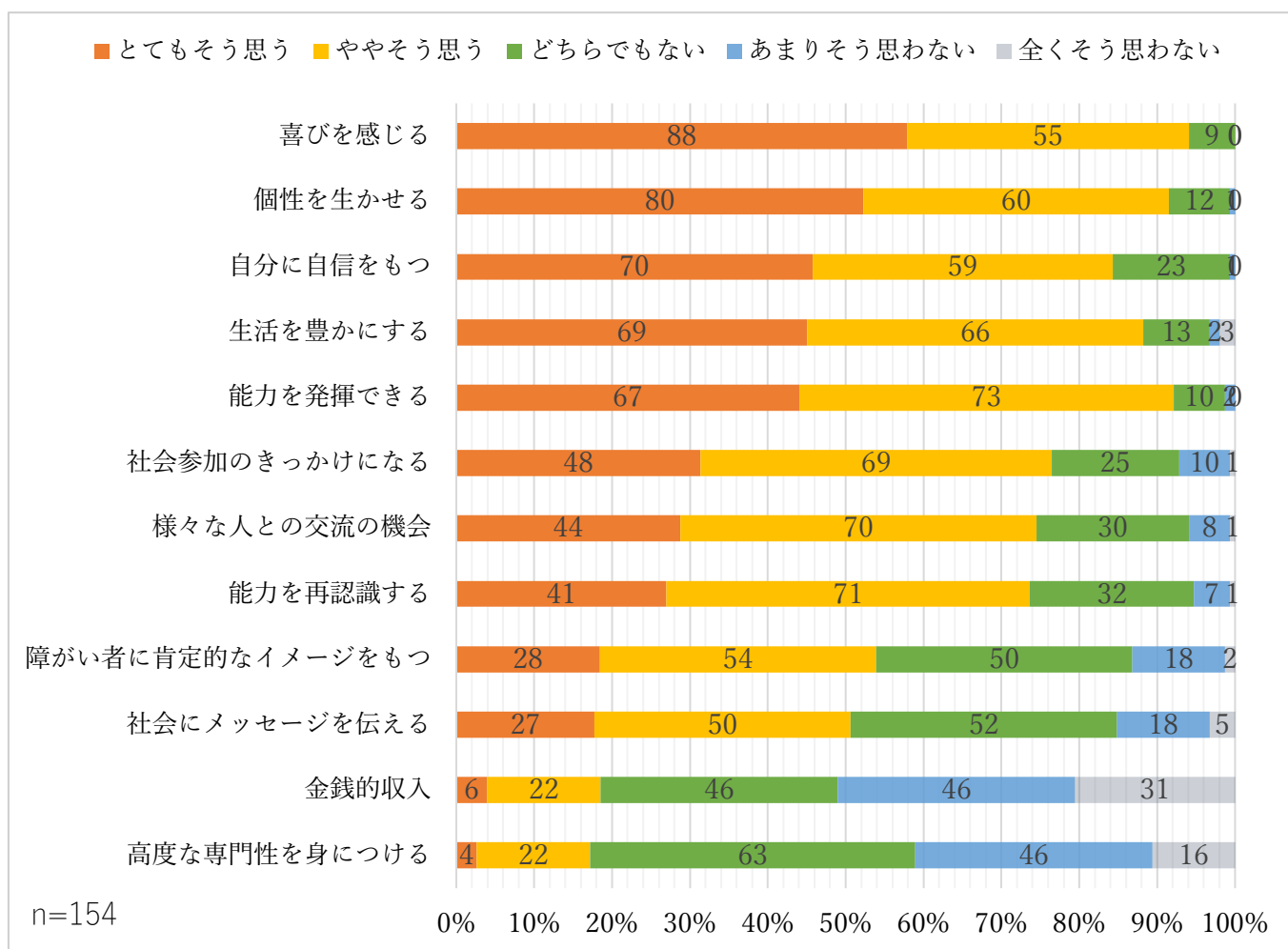


図20 創作活動・表現活動がもつ効果や意義

III. 集計データ

表1 属性に関する主な集計結果

	属性に関する主な集計結果				属性に関する主な集計結果			
	項目	カテゴリー	n	%	項目	カテゴリー	n	%
事業所の属性	所在地域	札幌市内	45	29.2	性別	男性	94	61.0
		道央（札幌市以外）	39	25.3		女性	59	38.3
		道南	18	11.7	年齢	10代から20代	5	3.2
		道北	24	15.6		30代	33	21.4
		道東	27	17.5		40代	55	35.7
	利用者全体の平均年齢	10代から20代	14	9.1		50代	40	26.0
		30代	49	31.8		60代	18	11.7
		40代	43	27.9		70代以上	2	1.3
		50代	29	18.8	介助経験年数	1年未満	0	0.0
		60代	13	8.4		1年以上3年未満	3	1.9
		70代	3	1.9		3年以上5年未満	12	7.8
		それ以上	1	0.6		5年以上10年未満	32	20.8
	対象の障害	知的障害	129	83.8		10年以上	105	68.2
		身体障害	50	32.5	事業所勤務年数	1年未満	13	8.4
		精神障害	34	22.1		1年以上3年未満	15	9.7
		重複障害	47	30.5		3年以上5年未満	13	8.4
	障害支援区分	障害支援区分2以下	0	0.0		5年以上10年未満	35	22.7
		障害支援区分3～4	66	42.9		10年以上	78	50.6
		障害支援区分5～6	84	54.5				
	提供サービス	短期入所	53	34.4				
		生活介護	153	99.4				
		入所支援	57	37.0				
		就労継続支援B型	43	27.9				

表2 活動の実施状況と課題意識に関する主な集計結果

実施状況		項目	カテゴリー	n	%	課題意識	項目	カテゴリー	n	%
	絵（貼り絵を含む）	実施あり		140	90.9		活動資金	課題を感じる	61	39.6
		実施なし		14	9.1			どちらでもない	50	32.5
	陶芸	実施あり		18	11.7			課題を感じない	43	27.9
		実施なし		136	88.3		活動時間	課題を感じる	54	35.1
	造形（粘土や彫刻等）	実施あり		32	20.8			どちらでもない	40	26.0
		実施なし		122	79.2			課題を感じない	59	38.3
	縫い物や編み物	実施あり		84	54.5		活動環境	課題を感じる	62	40.3
		実施なし		70	45.5			どちらでもない	43	27.9
	木工	実施あり		33	21.4			課題を感じない	48	31.2
		実施なし		121	78.6		発表の仕方	課題を感じる	61	39.6
	紙工	実施あり		100	64.9			どちらでもない	55	35.7
		実施なし		54	35.1			課題を感じない	38	24.7
	合唱やコーラス	実施あり		52	33.8		活動の進め方	課題を感じる	89	57.8
		実施なし		102	66.2			どちらでもない	42	27.3
	カラオケ	実施あり		122	79.2			課題を感じない	32	20.8
		実施なし		32	20.8		支援の方法	課題を感じる	101	65.6
	ダンス	実施あり		69	44.8			どちらでもない	31	20.1
		実施なし		85	55.2			課題を感じない	21	13.6
	楽器	実施あり		58	37.7		職員の専門性	課題を感じる	110	71.4
		実施なし		96	62.3			どちらでもない	28	18.2
	演劇	実施あり		6	3.9			課題を感じない	16	10.4
		実施なし		148	96.1		指導者の確保	課題を感じる	105	68.2
	書道	実施あり		54	35.1			どちらでもない	27	17.5
		実施なし		100	64.9			課題を感じない	21	13.6
	その他	実施あり		30	19.5		ボランティアの確保	課題を感じる	70	45.5
		実施なし		124	80.5			どちらでもない	47	30.5
	活動頻度	週に 4 日以上		62	40.3			課題を感じない	37	24.0
		週に 2～3 日		43	27.9		他機関との連携	課題を感じる	55	35.7
		週に 1 日		18	11.7			どちらでもない	68	44.2
		月に 1～3 日		21	13.6			課題を感じない	31	20.1
		年に数日		7	4.5		他職種との連携	課題を感じる	64	41.6
外部の人の参加の有無	実施あり		76	49.4		どちらでもない	62	40.3		
	実施なし		78	50.6		課題を感じない	28	18.2		
公開の機会の有無	実施あり		107	69.5	活動に関する情報	課題を感じる	64	41.6		
	実施なし		47	30.5		どちらでもない	68	44.2		
						課題を感じない	22	14.3		

表3 活動のニーズと意義や効果に関する主な集計結果

	項目	カテゴリー	n	%		項目	カテゴリー	n	%
ニ ー ズ	利用者の関心	とても興味関心がある	38	24.7		本人が喜びを感じる	そう思う	143	92.9
		やや興味関心がある	69	44.8			どちらでもない	9	5.8
		どちらでもない	28	18.2			そう思わない	0	0.0
		あまり興味関心はない	14	9.1		本人が個性を生かせる	そう思う	140	90.9
		全く興味関心がない	3	1.9			どちらでもない	12	7.8
	力を入れているか	とても力を入れている	19	12.3			そう思わない	1	0.6
		やや力を入れている	72	46.8		本人が能力を生かせる	そう思う	140	90.9
		どちらでもない	37	24.0			どちらでもない	10	6.5
		あまり力を入れていない	26	16.9			そう思わない	2	1.3
		全く力を入れていない	0	0.0		本人の生活を豊かにする	そう思う	135	87.7
	ニーズに応えられているか	とても応えられている	6	3.9			どちらでもない	13	8.4
		やや応えられている	78	50.6			そう思わない	5	3.2
		どちらでもない	35	22.7		社会参加のきっかけ	そう思う	117	76.0
		あまり応えられていない	34	22.1			どちらでもない	25	16.2
		全く応えられていない	1	0.6			そう思わない	11	7.1
	今後の活動頻度の希望	増やしていきたい	64	41.6		本人の交流の機会	そう思う	114	74.0
		現状を維持していきたい	85	55.2			どちらでもない	30	19.5
		減らしていきたい	4	2.6			そう思わない	9	5.8
	望む支援や制度	資金の助成	36	23.4	意 義 や 効 果	本人が自信を持つ	そう思う	129	83.8
		活動場所の提供	18	11.7			どちらでもない	23	14.9
		物品や資材の貸し出し	31	20.1			そう思わない	1	0.6
		支援に関する助言	53	34.4		本人の金銭的な収入	そう思う	28	18.2
		マニュアルの作成	19	12.3			どちらでもない	46	29.9
		外部の指導者の介入	57	37.0			そう思わない	77	50.0
		情報の提供	31	20.1		専門性を身につける	そう思う	26	16.9
		研修会・交流会の開催	38	24.7			どちらでもない	63	40.9
		その他	3	1.9			そう思わない	62	40.3
		特にない	31	20.1		利用者の能力を再認識	そう思う	112	72.7
							どちらでもない	32	20.8
							そう思わない	8	5.2
						肯定的なイメージ	そう思う	82	53.2
							どちらでもない	50	32.5
							そう思わない	20	13.0
						社会へメッセージ	そう思う	77	50.0
							どちらでもない	52	33.8
							そう思わない	23	14.9

IV. 今後について

本調査に関する詳しい分析内容・分析結果につきましては、今後論文として雑誌等での公表を検討しております。

ご多忙の中、本アンケート調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

北海道内の障がい福祉サービス事業所における
創作活動・表現活動の実施状況と関連要因に関する調査

調査結果報告書

令和2年3月31日 発行

北海道教育大学札幌校特別支援教育（安井研究室）

〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目

電話/fax 011-778-0433